

海外研究拠点揚州大学動物科学技術学院の修士学生と若手研究者交流事業

揚州大学動物科学技術学院と東北大学農学研究科は、2004年12月に部局間学術交流協定を締結し、職員・大学院生の学術交流を継続的に活発に実施した。この成果が認められ、2008年6月には大学間交流協定締結に発展した。大学間交流協定に基づき、大学院生の相互交流のため、揚州大学から大学院生の短期留学を毎年受け入れて、学生を対象とした動物科学に対する研究会、情報交換、見学などを行っている。2017年から、揚州大学はJSPS研究拠点事業で海外研究拠点を担当し、研究者および大学院生を加えた若手研究者との研究交流を実施している。

今年度は、揚州大学修士1年学生の李志威 (Zhiwei Li) (反芻動物栄養学)、王玉強 (Yuqiang Wang) (栄養学)、徐軍 (Jun Xu) (草地飼料学) さんが、2018年9月23日から10月10日まで18日間の東北大学農学研究科応用動物学系への訪問となった。彼らは揚州大学動物科学技術院に所属し、ウシ第1胃上皮細胞の培養、牧草成分の分析と発育に及ぼす影響の研究を行っている。分野訪問の際は研究内容の説明を受け、それぞれの観点から積極的に質問し、所属学生と親しく交流をしました。

初日は牧野研究科長を表敬訪問して自己紹介を行い、東北大学大学院農学研究科の説明を受けました。川渡農場を含め、応用動物学コースに所属する全ての研究室を訪問し、教員ならびに学生達との交流を行いました。また、本学の大学院生 (応用動物学コースの各研究室から2-3名が参加) を相手に、彼らが揚州大学で行っている研究内容のプレゼンテーションをしました。週末は、機能形態学分野の学生が研究内容の紹介を行い、交流を深めました。本交流がますます発展し、特に両大学の若い学生達が交流を通して、お互いを刺激会える関係になることを期待したいと強く感じました。



牧野研究科長を表敬訪問

今回の若手研究者交流事業成果を元に、それぞれの研究分野に対応した拠点交流を行い、今後の共同研究に発展することを願っている。また、今後も学生間交流の充実を再確認できたことより、共同研究題目「乳汁を用いた乳房炎早期診断技術開発と機能性素材探索」の若手研究者育成に関しては大きな進捗があった。本交流事業を実施できたのは、食と農免疫国際教育研究センターが主幹となっているJSPS研究拠点形成事業で「国際交流を目的とした短期招聘留学生事業にかかる経費」に認められたお陰であり、改めて感謝いたします。また、応用動物学系職員と学生諸君の協力を感謝いたします。



学生間交流の様子



川渡農場見学